

## クマによる人身被害調査報告書②

事故概要		男女2名が散歩中に親子のツキノワグマに遭遇し、親のクマに男性は左手、女性は左足を噛まれ、負傷
発生日	日時	令和7年10月13日 午前6時00分頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	みなかみ町下津
	環境	山林、道路上
	山／里の別	山
被害者（1）	年代・性別	69歳女性
	被害状況	軽傷（左上腕部から肩にかけて咬傷、左太腿後部に擦過傷）
被害者（2）	年代・性別	76歳男性
	被害状況	軽傷（左手人差指・中指・薬指の3本を咬傷）
加害個体	頭数	2頭（親1頭、仔1頭）
	大きさ等	体長約1.4m
事故状況		みなかみ町下津の林道で散歩中であった被害者（1）（2）が、林際に囲まれた耕作放棄地や墓地がある場所に差し掛かったところ、道路脇の藪の中から親グマが唸り声を上げて飛び出し、被害者（1）が左上腕部を噛まれ、左太腿に擦過傷を負った。被害者（2）も追い払おうとして左手中指を噛まれ軽傷。仔グマは藪の中にいた。
事故の原因・考察		今回の事故は、クマの活動が活発になる早朝の薄明時間帯に、被害者が鈴などのクマ対策を行わず、森林内の林道を散歩していたことが主な原因と考えられる。これは典型的な「バッタリ遭遇」に近い状況であった可能性が高い。さらに、現場には放棄されたカキの木やオニグルミがあり、クマがこれらを採食して周辺に滞在していたことが痕跡から推測される。周囲は昼間でも見通しの悪い藪が広がり、クマが恒常に生息できる環境であったことも、事故発生の要因となったと考えられる。
考えられる改善点		（住民側の対策） ○薄明・薄暮時間帯の外出を控える クマの活動が活発になる時間帯は、散歩や農作業などの外出を避けることで、遭遇リスクを大幅に減らすこと

ができる。

○日常的なクマ対策の実施と正しい知識の習得

鈴やラジオなどの音を出すグッズを携帯し、クマに自分の存在を知らせることが重要。また、遭遇時の正しい対応（静かに後退するなど）を学ぶことで、被害を防ぐ可能性が高まる。

○行政が開催する学習会への参加

行政が提供する講習や情報発信を積極的に利用し、クマの生態や行動特性を理解し、地域に適した対策を身につける。

（行政側の対策）

○加害個体と仔グマの早期捕獲

親と仔は行動を共にし、事故の経験は親から子供に引き継がれる事が多いと言われているため、仔熊も再び人に危害を加える可能性があり、親子ともに迅速な捕獲で再発防止を図る。

○放棄果樹の伐採指導と防除対策の普及

カキやクリなどの果樹はクマを強く誘引するため、未利用の果樹は伐採を指導し、利用する果樹には電気柵や幹へのトタン巻きなどの防除策を徹底する。

○住民向け学習会や啓発活動の継続

クマの生態や安全対策を広く普及させるため、定期的な学習会や広報活動を実施する。

○大量出没時の外出自粛要請

出没が頻発する場合は、通常の注意喚起に加え、薄明・薄暮時間帯の外出自粛など強い要請を行い、事故を未然に防ぐ。